

(2) 基礎 (II) Field epidemiologists (FE) による未来の FE のための SSC

浅川満彦 (酪農学園大学)

日本野生動物医学会主催 SSC「Field epidemiologists (FE) による未来の FE のための SSC」は日本野生動物医学会 (2003) で提示された「望ましい実習項目」の「基礎コース」および一部「応用コース (III)」を基盤に野外疫学の視点を涵養することを目的として開催している。この本 SSC は 2004 年、酪農学園大学動物病院構内に当該大学院獣医学研究科の一施設として野生動物医学センター Wild Animal Medical Center (『WAMC』と略記) が設置されたのを機に開始された。2009 年度までの 6 回実施で計 17 名の参加があり、所属大学は北から帯広畜産大、北里大、日本大学、麻布大、日本獣医生命大、帝京科大、岐阜大、宮崎大および鹿児島大であった。学科 (大学院含む) 系統別の内訳は獣医 14 と応用動物 (看護含む) 3 であった。実施にあたり、日本野生動物医学会 SSC 委員会委員長・浅野先生および各委員諸兄には全面的なご支援を頂いたほか、本 SSC 告知およびテキスト作成では同学会教育および感染症対策委員会、さらには学生会の多くの方々にご協力頂いている。この参加を契機に、日本野生動物医学会の諸活動に積極的に関わり、野生動物医学 (保全医学) 推進へ貢献をして頂きたいと念じている。

さて、2009 年度は第 15 回野生動物医学会直後、9 月 14 日から 17 日に WAMC 所属院生・学部生 (吉野智生、伊藤友貴、村瀬真弓、牛込直人、水主川剛賢、上手健太郎) と学生会本学支部 (雨宮教弘、久木田優美ほか) との協力のもと実施された。なお、今回の SSC では特別授業として吉野氏と北海道大学大学院・貞國利夫氏に御講話頂いた。正直なところ、吉野氏の場合、当該実施期間初日午後に彼の博士論文発表会・審査会と重複し、浅川は主査・指導教員として座長を務めるためその場に居合わせなければならない事態になり、緊急避難的措置であった。しかし、保全医学領域の博士論文課題の実例を知って頂く良い機会であったと思う。また、貞國氏は翌日から開催される鳥学会でご発表される内容を懇親会の中で御紹介された。彼は学生会支部長として前々回 SSC を担って下さったが、後輩達の活動に心を砕かれていた。御両名には心から感謝したい。

参加された 4 名から頂いたレポートを本 SSC 申し込み順に紹介する。